

環境科学 A

〔例題 1〕 カーボンニュートラルに関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1. 2020年10月、日本政府は2030年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、カーボンニュートラルを目指すことを宣言した。
2. 「排出を全体としてゼロ」というのは、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの「排出量」から、「吸収量」を差し引いて、合計を実質的にゼロにすることを意味するが、吸収量には人為的なものは含まれない。
3. 2015年に採択されたパリ協定では、世界的な平均気温上昇を産業革命以前に比べて2.5℃に抑える努力を追求することに合意した。
4. 2015年に採択されたパリ協定では、2050年に温室効果ガスの人為的な発生源による排出量と吸収源による除去量との間の均衡を達成することに合意した。
5. 世界の平均気温は、2017年時点で工業化以前（1850～1900年）と比べて既に約1℃上昇したことが示されており、このままの状況が続けば更なる気温上昇が予測されている。

【正答 5】

環境科学A

〔例題2〕 北海道生物の多様性の保全等に関する条例の基本原則に関するア～ウの記述の正誤の組合せとして妥当なのはどれか。

ア．生物の多様性の保全は、野生動植物の種の保存等が図られるとともに、多様な自然環境が地域の自然的社会的条件に応じて保全されることを旨として行われなければならない。

イ．生物の多様性の保全及び持続可能な利用は、生態系サービスを持続的に享受するため、長期的な観点から健全な生態系等の保全及び再生に努めることを旨として行われなければならない。

ウ．生物の多様性の保全及び持続可能な利用は、地球温暖化が生物の多様性に深刻な影響を及ぼすおそれがあるとともに、生物の多様性の保全及び持続可能な利用が地球温暖化の防止等に資するとの認識の下に行われなければならない。

	ア	イ	ウ
1.	正	正	正
2.	正	正	誤
3.	正	誤	正
4.	誤	正	正
5.	誤	誤	正

【正答1】

環境科学 A

〔例題 3〕 河川 A（流量 $60\text{m}^3/\text{秒}$ 、汚染物質濃度 $5\text{mg}/\text{L}$ ）に河川 B（流量 $15\text{m}^3/\text{秒}$ 、汚染物質濃度 $10\text{mg}/\text{L}$ ）が合流し、完全混合した後の汚染物質濃度はいくらか。ただし、合流後に汚染物質や流量は減少しないものとする。

1. $5\text{mg}/\text{L}$
2. $6\text{mg}/\text{L}$
3. $7\text{mg}/\text{L}$
4. $8\text{mg}/\text{L}$
5. $9\text{mg}/\text{L}$

【正答 2】

環境科学A

〔例題4〕 産業廃棄物の最終処分場の種類と埋立できる廃棄物の組合せとして妥当なのはどれか。（管理型最終処分場は遮水工及び浸出液処理設備を有するものとする。）

(処分場の種類)	(廃棄物)
1. 安定型最終処分場	— 太陽電池モジュール（電気機械器具）
2. 安定型最終処分場	— 動物の死体
3. 安定型最終処分場	— 水銀使用製品産業廃棄物
4. 管理型最終処分場	— 廃石綿
5. 管理型最終処分場	— 感染性廃棄物

【正答4】